

# 令和8年度 人材委員会 人材育成プログラムについて

---

JISA 人材委員会



## 現状の課題

デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に伴い。ITエンジニアには従来型の「言われたものを開発する」姿勢から、顧客の課題を深く理解し、新たな価値を提案・創造する「次世代の担い手」としての役割が求められている。

## JDIC (JISA Digital Innovation Challenge)

(2024年～)

ISO56002に基づき、革新的なアイデアを事業計画に落とし込む。イノベーション人材を拡大させる。

## 令和8年度進化

これまで実績をあげてきた「ITアスリート研修」「NTCプロジェクト」「JDIC」の3つのプログラムをより有機的に連携させる。これにより単なる研修の集合体ではなく、参加者が段階的に成長し、その成果が業界全体のイノベーションにつながる「次世代人材育成システム」を構築する。

### NTCプロジェクト (2022年～)

現場起点のフィールドワークを通じ、事業を構想・牽引するトップレベルの人材を育成

2022年からのトップクラスのエンジニア卒業生が集うコミュニティを形成。様々なテーマについて勉強会等を実施

### ITアスリート研修 (2023年～)

課題等を解決する実践的な人材を育成。



## 各プログラムが実現する受講者の成長ストーリー



### ITアスリート研修で「型（基本）」を学ぶ

顧客の課題を構造化し、解決策を提案する基礎能力を習得する。



### NTCプロジェクトで「実践」する

研修等で得たスキルを武器に、フィールドワークを通じてリアルな社会課題に挑戦。仮説検証を繰り返す。



### JDICで「事業」を創る

発見した課題やアイデアを、ISO標準に準拠したビジネスプランへと昇華させ、事業化をめざす。

## ITアスリート研修は、現場の課題解決力を高める目的で年2回に拡充する

### 目的

顧客の抱えるペインの発見、本質的な要求の定義発見、ステークホルダーへの提案能力を向上させる

### 対象

- ・ 技術的な実務経験を有し、今後「上流工程」や「顧客提案」へのステップアップを目指す中堅・若手エンジニア
- ・ 「言われたものを作る」段階から脱却し、顧客の真の課題を発見・提案できる人材へ成長したい中堅・若手エンジニア

### 定員

各回定員30名程度を想定（要望があれば個社個別対応も検討。また第1回修了者はNTCへの参加が推奨される。）

### カリキュラムの特徴

- ・ 反転学習による知識の習得
- ・ ビジネスケーススタディの活用
- ・ 全3回のハイブリット開催（集合研修と効果的なオンライン講義を両立）

### 開催スケジュール（第1回はJISA会議室にて開催 第2回/第3回はオンラインでの開催を予定しています）

【第1期】 第1回：4月23日(木) 13時～18時 第2回：5月14日(木) 18時～20時 第3回：5月28日(木) 18時～20時

【第2期】 第1回：10月21日(水) 13時～18時 第2回：11月4日(水) 18時～20時 第3回：11月18日(水) 18時～20時

**NTCプロジェクトは、エスノグラフィーを通じ、本質的な課題を発見し、解決策を価値に変える「イノベティブ思考」を習得する。**  
**本年も群馬県をフィールドに指定した課題領域において課題探索・解決に取り組む。**

## 目的

「イノベティブ思考（ISO56000）の体得」「多様な協働体験」「現場主義と実践的手法の学習」を特に育成するポイントとして活動する

## 対象

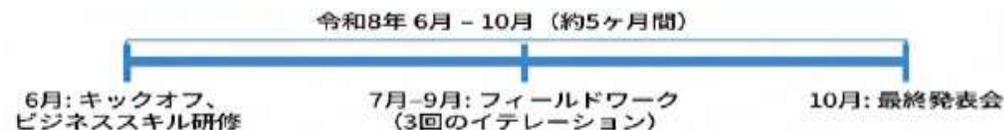
- ・ITアスリート研修修了者、または同等のビジネススキル（課題設定・提案力）を既に有するトップエンジニア
- ・自社の技術シーズやリソースを活用し、身近な業務課題（ペイン）の解決から新規ビジネスの種（シーズ）の発見まで、大小を問わず「価値創造」に挑戦する意欲のある人材
- ・社内外のステークホルダーを巻き込み、プロジェクトを牽引できる次世代DXリーダー

**定員** 20名程度を想定

## カリキュラムの特徴

- ・エスノグラフィー手法：現場フィードワークを通じ、データの裏にある本質的課題を洞察
- ・経験豊富なメンター陣：業界の第一人者による実践的なメンタリングを提供
- ・実践フィード：群馬県庁の全面的なバックアップの元、群馬県をフィールドに課題探索・解決に取り組む
- ・最終アウトプット：課題解決策をまとめ、関係者へのプレゼンテーションの機会を提供

## 開催スケジュール



## トップ人材同士の交流と切磋琢磨により、継続的に価値創造へ挑む場

### 継続的な自己研鑽の場：

研修終了後も、トップエンジニア同士が交流し、社会課題への提言活動などを通じて互いにスキルを高め合う。

### 実践知の共有と深化：

2022年以降のトップクラスのエンジニア卒業生が集い、各社の技術シーズや現場での実践知を共有する。

### イノベーション活動の継続：

NTCプロジェクトで発見した課題やインサイトを、自社事業へ繋げるための土台とする。

### 人材育成エコシステムの形成：

次期NTCプロジェクト受講生のサポートを通じて次世代人材育成に携わる。

## 実績

「生成AIによる開発プロセスの再定義 勉強会」2024年4月

「生成AIによってエンジニアは仕事を奪われるのか！？」2024年10月

「AIエージェント時代の到来 第3弾勉強会」2025年7月

### 【第2回勉強会参加者の声】

- ・ここまでできるのか、生成AIと驚きを禁じえなかった。二の足を踏んでいたが、それではだめだと痛感した。
- ・目の前でゼロから生成AIでシステムを作るデモがすごかった。私も身に着けてすぐ実践したい。
- ・小規模なプログラム改修やアイデア出しでしか生成AIを使っていなかったため、驚きと脅威を感じた。今日紹介があった使い方についてはさっそく内部にも共有していきたい。

## JDIC2026は、ISO56002に基づき、事業アイデアの創出からPoCまでを実践する場を提供

### 目的

事業アイデアのPoC（概念実証）までを実践し「事業化提案」につなげる人材を輩出する

### テーマ設定

1. オープンチャレンジ枠：広く社会課題を募集
2. 連続枠：NTCプロジェクト等で発見された地域課題と連携して応募

### 審査方針

Customer Problem Fit、実現可能性、イノベーションプロセスの実践度などを総合的に評価する

### インセンティブ

優秀賞の授与

### 開催スケジュール



## 各プログラムを年間を通じて配置し、参加者の連続的な学びと、連携を促進する

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ITアスリート研修 (第1期)	4月23日 5月14日 5月28日											
NTCプロジェクト			6月 研修 7月～9月 フィールドワーク 10月 最終発表						NTCプロジェクトで発見した地域課題や、自社で取り組んでいる地域課題インサイトはJDICの具体的なテーマとして連携可能			
JDIC2026	ITアスリート研修の修了者は、より高度なNTCプロジェクトへの参加候補となる					8月 エントリー 9月 キックオフ 12月 中間発表 2月 最終発表						
ITアスリート研修 (第2期)							10月21日 11月4日 11月18日					